

4年1組がインフルエンザの感染増のため学級閉鎖

別紙でもお伝えしておりますが、4年1組は、16名のうち6名がインフルエンザの感染のために欠席、体調不良のための欠席が4名で、10名が欠席となっています。そのために、4年1組を9日(火)～11日(木)を学級閉鎖といたします。他学年の児童にはそれほどの多さは見られていませんが、これからも感染予防はしっかりと継続していきたいと思います。ご家庭でも十分お気をつけください。

感じたことから

○ “鼻水”“くしゃみ”との戦いから

麻生学園小学校に着任して6年目。令和2年のスタートの年はコロナ禍だったのですがその時から今まで、コロナにもインフルエンザにもかからず、風邪一つひかず、ずっと健康を維持したままでした。この無病の期間は、私の66年の歴史の中で最長だったような気がします。『なかなか私もやるじやないか』と悦になっていたところ、突然、“鼻水ダム”の決壊。マスクの内側は大洪水。調子に乗ったら、落とし穴はあるものです。「二季」と言われるようになった今日、たまらない暑さが急に寒さに変わり、鼻奥がビックリしてしまったようです。身体は元気なのですが、“鼻水”だけでも流石に辛い。鼻がもやもやとし、思わず“くしゃみ”が出ると、その後はもう“くしゃみ”的連発です。“くしゃみ”も“鼻水”も出すまい出まいと、苛立ちながらそちらにばかり意識していると、一層止まらなくなってしまいます。

そんなとき、ちょっと気持ちを落ち着かせ、軽く目を閉じ、深呼吸をし“くしゃみ”“鼻水”的ことは意識せず、穏やかに別のことを考えていると、いつも間にか止まっていることがしばしばあります。

ひょっとして、これは“くしゃみ”“鼻水”に限ったことではないかもしれません。友達と喧嘩をしたり、何か失敗をしたりするなど、“気になること”があるとそちらに必要以上に気を向けてしまうことがあります。その苛立ちの中では、ほとんどの場合“気になること”を解決できません。ちょっとしたパニックの中で、事はマイナスの方向に進むばかりでしょう。少し気持ちを落ち着けて、“気になること”を意識せず、評価せず、“浮かんでも素通りする”ように心がけると、気持ちが安定し、良い方向に向かうことがあるように思います。

今、佳境に入っている6年生の中学受験も、試験当日に『これは入試だ！』と意識しすぎると本来の実力が発揮できないことがあります。心を落ち着けて、平常心で臨むことが、良い結果につなげる大切なことの一つ目の気分がします。

※ “くしゃみ”“鼻水”的件から、何を言っているんでしょうね？申し訳ありません。

○ 寒さの克服、その後は…

厳しい寒さが到来する季節となりました。これから辛い日々が待っています。しかし、人は昔から、その寒さを様々な側面から利用してきています。

日本酒や味噌や醤油は、この寒い時期に仕込まれます。発酵食品は、雑菌を嫌うため寒さで雑菌が繁殖し難いこの季節が仕込みをするのに適しているそうです。



また、ねぎ、大根、白菜などの冬野菜は「霜に当たると甘くなる」といわれています。冬野菜は寒さから身を守るために、水分を減らして糖分を増やし凍り難くしているそうです。

さらに、武道を志している人は、「寒稽古」というあえて寒さの中で厳しい鍛錬を行うことで精神面を鍛えています。

このように厳しい寒さを経て、発酵食品や野菜は美味しいくなったり、人は精神面を鍛えたりしてきます。

西郷隆盛さんの言葉に「雪に耐えて梅花麗し」があります。意味は「梅の花は厳しい雪の寒さに耐えるからこそ、美しく咲く。人間も多くの困難を経験してこそ、大きなことを成し遂げられる」というものです。

小学校時代の私は、帰ってからの勉強といえば、およそ宿題くらいなものでした。しかし、本校の6年生は違います。「受験」という大きな壁であり、目標であり、越えなければならないハードルでもあるものが真正面に控えています。私の小学校時代とはまるで違います。しかし、これを克服することで、厳しい寒さを乗り越えた人としての成長が待っていることでしょう。

子ども達はきっと、これから世の中を創造する素晴らしい人材として世界で活躍することだと思います。その第一歩をこの受験を通して踏み出してください！

